

第2回 総合都市交通マスタープラン策定検討委員会の要旨

日時：平成23年9月30日（金）午後1時30分から3時30分

場所：名張市防災センター 2階 防災研修室1, 2

【委員】都市マスタープランで集約連携型都市と拠点と軸の形成を掲げ、それを受けて総合都市交通マスタープランを策定することから、交通が集約連携型都市を支える軸を担うといった目標を明確に記載すべきである。

本編の 序論1.「名張市総合都市交通マスタープラン」策定の目的 で整理されていることから、一部引用するなどし、表現を整理する。【委員長】

【委員】都市交通の問題・課題はその内容から ...交通のまちづくりに関する問題・課題 ではなく まちづくりをしていくための交通の問題・課題 とすべきである。

「...交通まちづくりに関する問題・課題」という言葉に変更し交通部門の課題等である旨を表現する。ただし、「交通まちづくり」という言葉が名張市で一般的に用いられていないので、その概念を明確にする。【委員長】

【委員】何をイメージして物流機能の強化を考えているのか。

名張市の場合、求められる最も重要な機能がアクセス機能であると捉えていることから、表現を物流のためのアクセス機能の強化と改める。【委員長】

【委員】名張市には交通弱者が大勢いるのに交通手段のベスト・ミックスがなされていないので、そういう視点をしっかり見据えるためにも、都市交通の問題・課題として ベスト・ミックス・ネットワークの構築 を盛り込むべきである。

環境に配慮した持続可能な交通まちづくりにベスト・ミックス・ネットワークを入れるのが適当なので、詳細は事務局で検討するとして、そのように問題・課題を整理する方向で進める。【委員長】

【委員】問題と課題は理解できるが、基本方針は漠然としている。名張市の発展を妨げる交通に関する問題・課題が明らかにされていることから、本計画では整備戦略や実施計画といった具体的施策を示すべきである。

本来はマスタープランで基本的な方針を定め、それに基づいて財源等を見据えながら年次的な整備と効果を実施計画や整備戦略で検証する。これは次のステップと考えている。【事務局】

マスタープランの性格上、具体的な個別の計画や事業計画を記載して、地域の計画までというのは描けないが、マスタープランがあるからこそ、次にそういった計画が立てられるので、その前段階と考えて頂きたい。我々として行政側に求めるのは、このマスタープランが出来上がった暁には次のステップの計画に是非進んで頂きたい。【委員長】

【委員】国道 165 号と 368 号の交差部にハブステーション機能を持たせるような整備を方針に掲げてはどうか。

道路で名古屋方面、松阪方面、あるいは津方面から来られたところがゲートウェイになる。そこで何らかの観光や情報の提供機能をもたせるというようなことはあり得る。その辺りの考え方を次回までに事務局で整理すること。【委員長】

【委員】 「名張市総合都市交通マスタープラン」策定の目的 や期待される効果を見ても、将来名張のまちがどの様になっていくのかわかり難い。名張市の取り巻く社会、経済状況をどう捉え、少子高齢化や環境といった課題に対して期待される効果を具体的にわかりやすく記載すべきである。

期待される効果については、それなりに表現されている。まちなかへの来訪者が増加するというのは、名張市が元気になる、経済的に活性化するということが想像できるが、そういうことを書き込んでいないので、交通は良くなっているが、まちとしてどうなのかというのが見え難い。この辺りの整理についても、事務局の方で次回までに整理すること。【委員長】

【委員】ビジョンの「ひと・もの・おもいをつなぐ、結いのまち名張」を聞いて、交通に関係するとは想像できない。折角交通体系を考えるのだから、交通に対する思いをわかりやすく入れるべきである。

これが交通マスタープランのビジョンかと言われると、直接は結びつかない。総合計画とか、都市マスタープランではこういう言葉が相応しいが、実はそれを支えるのが交通である。この様なまち、ライフスタイル、それを支えるのが交通だということではあるが、わかり難い。ビジョンは議論をつくしてもなかなか纏まらない。ビジョンに関してはそれぞれ思いがあるかと思うので、事務局に提案して頂くことにして、事務局の方でご検討頂いて、また次回提案して頂くこととする。【委員長】